

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700198		
法人名	有限会社ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金358-13		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_ban=true&amp;jiryosyoCd=0171700198-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_ban=true&amp;jiryosyoCd=0171700198-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・私たちのケア理念「その人らしい生き方を大切に、穏やかで安心した生活を提供します」  
 ・私たちは、利用者一人ひとりの生活と人格を尊重し、見守り、支え合いを第一に、できることはしていただき、日々のささやかな楽しみを大切に、自由で誇りのある暮らしを、みなさまと共に創っていきたくと考えています。  
 ・私たちのホームは市街地のほぼ中央を横断する遊歩道「オランダ通り」に面しているため、緑に囲まれ静かな環境に立地しています。  
 ・オランダ通りを散歩したり、ベンチで日向ぼっこを楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は町の中心部の緑ある遊歩道に面し、落ち着いた環境に立地しています。利用者は遊歩道に面したベンチで外気浴し、地域住民と交流するなど、地域の中で事業所が認知されています。職員は、日々の支援に理念を反映し、利用者を集団ではなく、一人ひとりの個人として尊重し、意向や要望をかなえられるように努めています。利用者の希望や要望は、日々、その時々で変わるものであるという前提に立ち、日々のルーティンであっても意向の確認を行うようにしています。日常生活や趣味などで、利用者の望むことをできる範囲で行ってもらうことで、自尊心や尊厳を守っています。利用者の希望や生活歴を考慮した家庭的な料理を手作りで提供し、利用者の食の維持や楽しみにつなげています。利用者の気分転換につながるちょっとした外出が気軽にできるように、車や運転手の確保を行い法人全体で支援を行っています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果			
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員会議やユニット会議にて復唱し、常に確認しあい、実践につなげる意識を持っている。	理念は会議時だけでなく、日々の支援の実践からも確認し、職員が共有しています。利用者一人ひとり、その人らしさや思いを受け止め、日々の支援を通じて、基本は利用者であるとの認識を職員全員が持つことができるように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナの影響もあり、地域との交流自体が難しい状況ではあったが、散歩の際には、挨拶をするなど行っている。	近隣の住民も事業所の入居者に感染が広がらないように、散歩中の声掛け等を控えてくれるなど配慮してくれています。毎年参加している町の行事は中止となり、地域との交流が難しくなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・コロナ禍であり、地域交流広場等の開催に至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナ禍であり、行事や日頃の様子等、書面にて報告や意思疎通を図っている。	運営推進会議は、法人本部が中心となり、法人の3事業所合同で行っています。今年度は書面での会議となりました。会議には行政、地域住民、家族、職員が参加し、事業所の現状を報告し、意見を求めました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・感染症対策等の研修や会議、認定調査時等、保健福祉課や包括支援センターと連携を図っている。	行政、地域包括支援センター、病院などへの対応は、施設長が窓口となっています。町で開催した感染症対策の研修会に参加し、研修内容を対策に反映するなど、有効に連携しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ユニット内で共有し、理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修に参加した職員から、職員会議の場で伝達研修を行っています。また、事例検討を行い、身体拘束や理念に合わない不適切な支援になっていないかについて、職員間で話し合う機会を設けています。	身体拘束について法人全体で取り組んでいます。引き続き、禁止されている行為やグレーゾーンの対応について検討し、職員全員が定期的な研修を受けるなど、施設全体での理解を深めていくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・ユニット内で共有し、理解を深め、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・数年前に1度研修に参加した程度であり、深く理解は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・担当者が同席して、丁寧に説明し、理解が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会や苦情窓口が設置されている。 ・その他、日常に関わる事に関しては、随時対応している。	家族の来訪時に直接意見や要望を聞いています。また、今年度は、毎年開催している家族会の懇談会も中止となりましたが、電話で家族の意向を確認しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・思いを聞いてくれるが、全てが反映される訳ではない。	職員は個人面談の際に、直接経営層に意見や提案をすることができます。今年度は、感染症もあり、面談は中止となりました。行事など日常の事業所運営は、職員の自主性に委ねられており、法人本部は積極的なバックアップを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・就業環境の整備に努めてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・コロナの影響もあり、外部での研修はないが、内部研修の機会を設ける等、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・コロナ渦でいつも以上に交流する機会は少なく、個人的な交流になってしまっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・寄り添うことで、不安に感じている部分をくみ取り、安心できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・話しやすい雰囲気作りをし、要望や不安を聞き取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・対話をし、また状態を見極め、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常を共にする事で、お互いが助け合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・情報を共有し、共に支えていけるよう連携している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの美容室への外出支援や電話や年賀状のやり取りなどの支援を行っている。	面会に訪れる親しい知人や関係者と事業所通信を一緒に見るなど、利用者の状況を共有し、関係の継続を支援しています。また、事業所で撮影した写真を家族に送ったり、家族からアルバムを預かるなど、直接面会できなくても、関係が維持できるように工夫しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係性を大切にしながら、状況によっては、職員が間に入り関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・施設外で会った時など、挨拶をし、ご本人の近況をうかがっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いを把握し、その都度検討し対応している。ただし、内容によっては、すぐに対応出来ないこともある。	利用者と一対一になる時に、思いや意向を確認しています。得られた情報は、個人記録や伝達ノートに記録し、また、口頭で職員間で共有しています。職員には、利用者本位で対応するように指導し、利用者の意向を反映するようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・基本情報やご家族からの話の他に、日常の会話の中からも、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・スタッフ間で情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・センター方式を使用し、モニタリングの中で新たな気づきや今までの課題の経過等を取り入れ作成している。ユニット会議やその都度、検討を行っている。	職員全員でモニタリングを行い、3か月、6か月ごとに、センター方式のアセスメントを行っています。その結果をもとに、ユニット会議で検討し、計画を作成しています。利用者の言葉と状況を記録することで、会議での検討の際に、利用者の思いや意向を汲み取り易くする工夫をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・センター方式、個人記録、伝達ノートで共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その都度、必要とされている支援等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナの影響で今年は難しかったが、新たに図書館の利用や外部レクの参加を検討していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・訪問診療やかかりつけ医、専門医に適切な医療を受けられるように支援している。	ほとんどの利用者は、地元の病院がかかりつけ医となっています。町外への受診の際には、家族が対応しますが、車いすの利用者の場合は職員が対応しています。毎月訪問診療を受けており、病院での定期検査は年1回となっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	・記録を残し、状況報告や相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・基本情報や看護報告書の共有をしている。コロナの影響で、本人に面会し、その場で医療サイドとの状態確認や把握は難しく、電話対応で共有していた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・家族と話し合いをし、スタッフ間で共有している。	終末期の対応について、指針を作成し、希望は都度、家族に確認し、事業所と共有しています。家族、職員、病院で連携をとりながら、終末期の対応に当たっています。緊急搬送時の対応も、消防と情報を共有し、夜間でもスムーズな対応ができるようになっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・日頃からシミュレーションをしているが、全ての職員が身につけているとは言い切れない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・コロナの影響で、今年度は近隣住民が参加せず、職員と利用者のみで避難訓練を行った。	年二回、日中と夜間想定での火災避難訓練を行っています。緊急通報先に、管理者などへの通報だけではなく、隣接する同一法人の事業所へも通報することで、夜間の連携を確保しています。万一、管理者などへ連絡がつかない場合は、近隣の職員に応援を求めようとしています。発電機などの備品や通常の備蓄だけではなく、感染症対応の備品の備蓄も行っています。	事業所ごとの災害対策だけではなく、事業所の新体制に対応した、法人の各事業所間の連携やバックアップ体制などの整備、拡充が望まれます。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・節度と敬意を忘れず、気を緩めすぎないように心がけている。	利用者の尊厳を損なわないよう、利用者のできることをやるだけやってもらうように支援しています。職員には、利用者を集団としてではなく、一人ひとり、尊厳のある個人として尊重するように指導しています。職員の不適切な対応が見られた場合は、個別に事例を踏まえ伝えるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・一方的な支援の提供にならないよう、本人の希望を伺いながら、選択ができるような声かけを意識して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・一日の日課は決まっているが、本人のペースや体調によって日々過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・一緒に服を選んだり、美容室に行きパーマをかけおしゃれを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・下ごしらえ、味見、後片づけ等、共に行っている。食事と一緒に摂っている。	食事は利用者も手伝い、家庭的な手作りのものを提供しています。メニューは栄養士の作成した献立をベースに、利用者の希望を反映したものとなっています。サンドウィッチの具材やラーメンの味など、細かな対応を行っています。誕生会では、誕生日の利用者の希望を反映し、利用者みんなで楽しめるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々に合わせ食べやすいよう、量や形を変え、また器は個人に合わせた形で提供している。また、水分摂取表を用い、小まめに水分の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・一人ひとりに合わせたケア用品を使用し、食後に声かけや必要によって介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・職員間で共有し、不快なく排泄できるよう、常に清潔が保てるよう、個々に合わせた支援の実施をしている。	オムツやリハビリパンツの使用に際しては、本人と家族に説明し、快適性や支援の際の工夫なども伝えていきます。オムツなどの使用をしていても、状況によって、布下着やパッドなどを使用しながらトイレでの排泄に移行できるように、職員が検討しています。利用者の自尊心や意欲が継続できるよう、できる限りトイレでの排泄を目指したケアを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェック表を用い職員間で共有している。体操や歩行運動以外にも、水分や乳製品の摂取を意識し提供している。それでも便秘をおこす方には、医療と連携し個々に合わせた下剤を服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に浴った支援をしている	・体調を確認しながら、個々に合わせ実施している。	午後の時間帯で週2～3回の入浴を支援しています。利用者の「今日入浴をしたい」という希望にも出来る限り応えています。一番風呂や二番風呂、シャワー浴の希望にも対応しています。羞恥心などに配慮し、同性介助も行っています。入浴を好まない利用者にも、声掛け方法を工夫し、職員が協力し無理強いわせず入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々に合わせて、安眠や休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬にミスがないように、日付の記入や配薬の前に職員でダブルチェックしている。薬は、飲み込むまで確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・午前中は皆で、レクリエーションを中心に楽しみ、午後からは個人にあった役割や楽しみな事を行い、気分転換を図れる様にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナの影響で、自由に出かけることは困難であったが、感染予防し、散歩やドライブには出かけた。	コロナウイルス感染防止のため、今年度は利用者の家族との外出や外泊を行うことができませんでした。また、外出行事や地域との交流も制限される中、ユニットごとに全員でドライブに出かけるなど、工夫しています。利用者が外出したい場合は、職員が後ろについて安全を確認しながら散歩や畑での外気浴を楽しんでもらったりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・コロナの影響で、自由に使うには至らなかった。またお金を所持することを拒んだり、返って不穏になってしまう等の理由から、金銭は事務所の金庫で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・送りが届く時には、お礼の電話をかけたり、利用者の方が希望される都度、対応している。年賀状のやり取りもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・明るく清潔で快適であるように心がけている。ホールには個々の作品や四季に合わせた飾り付けをしている。	平日は、清掃や消毒を行う職員を配置しています。ソファや食卓の座る場所などは、利用者間の関係などを見ながら随時変更しています。野菜の下ごしらえや、百人一首などのゲーム、季節感のある壁飾り作りなどを行っています。日中は利用者が居間に集まって楽しみながら過ごすことが多く、様々なレクリエーションを取り入れて一日の大半をここで過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファ、食卓イス、小上りと思いの場所できつろげる様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・慣れ親しんだ物を部屋に置いたり、家族からの手紙や写真を飾り、自分らしい空間作りをしている。	表札や目印になる飾りなどで自分の居室だと分かるように工夫しています。利用者が好きなものや家族からの手紙や写真、今まで使い慣れたものを身近に置くことで、自分の居場所として安心できるようにしています。仏壇への毎日のお供えなど、習慣を継続できるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・食卓の座席にネームをつけたり、タンスに何がしまっているか張り出したりと、利用者自身でもわかるように工夫している。		